



幸せな贈り物

もっともおそろしい戦争



「772 艦水兵は帰還しなさい...」

私たちは今年3月26日に起きた北朝鮮の天安(チョンアン)艦爆沈事件で46人の勇士を胸に込めなければなりません。その当時、東亜大医大キム・トクギョ教授が書いた「天安(チョンアン)艦失踪者の生還祈願の詩」の余韻が消える前に、11月24日には、延坪島に対する北朝鮮の無差別放射砲攻撃で4人の軍人と民間人が死に、数十人のケガ人が出ました。これによって、朝鮮半島は戦争の気配が高まっています。ところで、これまで、天安(チョンアン)艦事件以後、葬式が終わるやいなや政局はいつそうだったかというように、選挙という政治の風のもと、自分たちの利益のために割り切れない話とお互いに対する非難をぶちまけたのですが、今回も間違いなく、与野党がお互いの非難をしあって、進歩と保守のとんでもないわさと争いは続いています。このような渦中にも、26日には自分たちの利益に関係していることなら、北朝鮮軍が韓国の領土と国民が攻撃を受けた嚴重な安保状況かどうであったかと、予算問題を置いてことごとに対立して争っていた与野党が、上手に一つの心になって、ひそかに

自分たちの歳費を引き上げる予算案を全員一致で通過させるという、恥知らずな行為を行っています。これまでの歴史の中で起きた戦争は、みな自分の利益を追求しようとする人々の欲によって、手段と方法と関係なく起きたことです。今まで地上では16,000回の大小の戦争が起きました。今でもその戦争は続いていて、これからも、あちこちに飢饉と戦争が起きることを聖書は預言しています。宗教の葛藤と法王権拡大に対する欲で、3世紀にもおよんで起きた十字軍戦争(1096~1291)、英国とフランス間の長く積み重なった憎しみで100年間も続いた100年戦争(1337~1453)、ドイツを舞台とした新教と旧教の間の葛藤が表われた30年戦争(1618~1648)、帝国主義の植民地争奪戦と国家間の産業の葛藤と対立で900万 명이犠牲になった第1次世界大戦(1914~1918)、世界経済恐慌にともなう民族主義の葛藤と世界制覇の欲で6,200万人が犠牲になった第2次世界大戦(1939~1945)、ユダヤ民族に対する憎しみと嫌悪で3段階にかけて600万人を虐殺したヒットラーの人種主義、数千万人が犠牲になったスターリンの肅清と鉄拳政治、強大国の欲の中で民主主義と共産主義の理念対立と葛藤がもたらした朝鮮戦争…。自分の利益のために、絶え間ない欲と争いの果ては、いつも戦争と死でした。

本当に国を愛して、国民を愛して、未来と後の世代を思う人ならば、ひたすら自分の利益のためにお互いを批判して戦うことはないでしょう。私たちはひとつの船に乗っています。船が破船すれば、ともに死ぬのです。そして、その苦しみは私のものでも、あなたのものでもなく、私たちみんなのもので、後の世代の持分になります。真の平和と一つになることが必要な時代に、何か隠された動機と自分のための欲が人間を戦うようにさせるのです。なぜ、このようなことがずっと起きるのでしょうか。

最も怖い戦争「霊的戦争」

幸せで満足していて戦う人はいないでしょう。何か埋めることができない隠れた葛藤と欲が人間を戦うようにさせるのです。神様のみことばである聖書には、人間が創造される前からあった暗やみと空虚と混とんの実体、サタン(悪魔)という存在に対して確かに明らかにしています。サタンは天から墮落した天使です(ヨハネの黙示録 12:9~12)、天国で音楽を担当していた天使でしたが、高ぶって神様に敵対して墮落して追い出された存在だと言われています(エゼキエル書 28:13~17)。このサタンは、人間に現れて悪賢い偽りのことばで神様を疑うようにさせ、神様との約束である善悪の知識の木の実を取って食べるように誘惑しました。「あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです」(創世記 3:4~5)。結局、サタンの偽りにだまされたエバは、肉の欲と目の欲が胸にいっぱいになって、神様を離れるようになりました。それ以後、人間はサタンに捕われて呪いと不幸がたえず繰り返す運命に陥るようになったのです。結局、弱肉強食の世界の中に捨てられた人間は、生存の問題を解決するために、肉欲の中で力の原理に支配されて生きていくようになりました。ですから、このような世の中で、争いによる呪いと災いの悪循環は繰り返されるしかありません。これが、まさにサタンの願いであり、目標です。

人間の欲と争いと滅亡がサタンの影響ならば、サタンの権威に勝たれた方だけが救い主となることができます。人間が絶対に解決できないので、サタン

の問題、罪と運命の問題、地獄の問題、神様を離れた問題を解決するため、この世に来られて十字架で死んで復活されることによって、まことの救い主(キリスト)であることを証明された方がおられます。その方が、まさにイエス様です。それなら、どのように私のすべての問題から解放されて、救いを受けることができるのでしょうか。イエス様をキリストと信じて、私の心に主人として受け入れれば良いのです。このとき、神様が永遠にともおられる神様の子どもになった身分を得て、本来の人間が味わった祝福と権威を回復するようになります。今、この時間にあなたはイエス・キリストを受け入れることによって神様の子どもになって、すべての運命から、争いと呪いの災いから解放されるようになります。真実な心で神様の子どもになる受け入れの祈りをそのまま読んで祈れば良いのです。私を変えなくては、どんなものも変えることはできません。

国と民族のための祈り

神様に感謝します。今日、韓国を混乱させる排他的理念と争いが崩れますように。むしろ、この困難と混乱が神様の隠された祝福を発見する機会になりますように。韓国の地にあるすべての争いの勢力が縛られるようにしてください。韓国の長く続いている東西の争いが縛られるようにしてください。サタンが活用する左派、右派の争いが縛られる時間になるようにしてください。南と北の争いがイエスの御名で縛られますように。そして、私たちの生活現場の葛藤と不信仰とすべての戦いが縛られますように。そして、福音で世界を生かす祝福のモデルの国になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネの福音書 3:16)

霊的戦争 その暗やみの実体

本来、神様のかたちとして造られ、神様とともにいる美しい霊的存在で、神様の子どもとしてこの世を征服して治めなければならない人間を、神様と離して、不順従になるように誘導して分離させたそのサタンの実体は、たんに集団や文化の中にだけ入りこんでいるのではなく、個人の人生にも巧妙に入りこんでいて、そのたましいを荒れ果てさせ、その運命を完全な失敗へと引きずり込んで行っています。

あるとき、あなたとも良い友人になることができるある人に会いました。美術の分野で、韓国で良いと言われる大学を卒業して、日本でとても取りにくい文学博士の学位を受けた彼女は、仏教美術を専攻する最高のエリートでした。とても良い人で、やさしく見える丸みのある彼女の顔ときれいな目のかたちも印象的でしたが、より一層、目についたのは暗い彼女の目つきでした。たった一度でもよいから穏やかに眠ることが願いであった彼女は、十数年間、不眠症に苦しめられていたということです。夜になると、実際に訪ねてくる暗い影が目をとじることでもできなくさせて、逃れることもできなくて困らせると、想像できることでしょうか。学生時代に教会も通ったのですが、この問題が解決されなくて、気功の修練場で6年間、訓練を受けたということです。ちょうど気功をする教授の勧誘を受けて、日々、六字真言「オン-マー-ニー-パド-メ-フン」という呪文を唱えたということでした。へそに気を集めて全身に気を送る、その修練でだいたいの病気は治るのに、彼女はこのように告白しました。「本当に大きい悪霊を呼ぶようです『オン』という意味がサンスクリット語で宇宙と天体を象徴するというからです。大きい悪霊を呼んで、小さい悪霊を追い払うことでしょう。良くなるどころか、考えてみると、もっと大きくて暗いどん底に私を引っ張って行って、完全にやみの奴隷にされたようです」博士の話だと信じる場合、あまりにも抽象的で非科学的ではないでしょうか。しかし、これが事実(Fact)です。海が分かれる神秘の土地といって大韓民国ムダン(霊媒師)が総集結するという珍島は、ポンおばあさんという虚構の偶像を通して降りてくるサタン、すなわち悪霊の暗やみが掌握していました。町のすみずみに精神病患者、障害者、アルコール中毒者が深刻な状態でいて、やけくそになった人々が三食の食事に縛られて争いながら夢を失って生きていました。学問と知識、経済と社会、文化と家庭、個人の中に巧妙に侵入して、完全に失敗の中に引っばる存在、その暗やみは特に心と思いを巻きつけて個人を破壊させます。

そのとき、イエス様はおっしゃいます。「しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです」(マタイの福音書 12:28)、この世に神の国が来て、個人の人生に、家庭の中に天国が来るようにできるのは、ただイエス・キリストの権威ある御名です。その力を受けて、サタンと戦いなさいということです。

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである」

(ヨハネの福音書 20:31)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。

私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。キリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

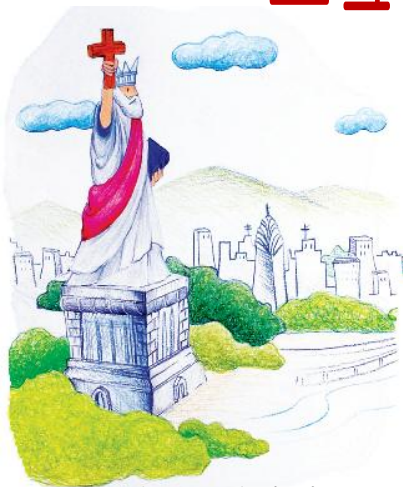
神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

ニューヨーク

ニューヨークを歩きながら



イラスト_シン・チョウンウン

今は大いに変わったが、以前には「香港に行く」と言えば、とても良いところに行くのだなと思った。それだけ香港は良いことと、良いところの代名詞のように考えられてきた。ところで、

今は香港よりは太平洋を渡って、大西洋を渡ったニューヨークが、その有名税の先頭の座を占める。「映画」といえば、アメリカの西部L.A.のハリウッドだが、東部にあるニューヨークは経済と芸術とミュージカルなど、大衆性に土台をおいた文化の一等地としての名声がきわだつところだ。ニューヨークの中にはハドソン川の河口にマンハッタンという巨大な石の島が位置するのだが、陸地近くの島は普通、川の砂が積もって堆積土の状態で存在するのだが、唯一マンハッタンは地盤が石で構成されて固いので、狭い面積の中に巨大な摩天楼のビルディングが立ってもゆるぐことがない。マンハッタンと呼ぶとき、ニューヨークのマンハッタンもだが、ニューヨークの中にあるニューヨークという概念で、ニューヨーク、ニューヨークだと呼べば、マンハッタンを指し示すのだ。

マンハッタンには、北から南に貫く道路が10本あまりあるが、そのうちで有名なのがブロードウェイだ。ブロードウェイが名声を博すようになったのは、全世界に名をはせるミュージカルの集散地であるためだ。こちらで公演されて価値を認められるミュージカルは、全世界の注目をあびるので、観光資源になってまたマニアが量産され、経済効果もあらわれるのだ。しかし、こちらのミュージカルといっても、結局、人間の末梢神経を刺激する興味中心の娯楽プログラム一色だ。短い時間であっても、本当に人生の価値と人生の意味を発見するようにさせてくれる意味あるプログラムを人々は待っている。その場に

韓国の若者たちが作った英語ミュージカル〈契約の旅〉が絶賛のうちに公演されて、アメリカ建国の都市フィラデルフィアに続き、世界政治一等地であるアメリカの首都ワシントンでも公演される。

だれでも、人生には分からない苦しみが伴って、その人生の理由を知りたがり、未来を新しく夢見たりもする。夢を持つことができる力がある人は、成功とともに祝福を味わうという期待はあるが、力を持つこともできない人は、世の中を恨みながら生きるしかない。こういう人生の問題を深く事実的に扱ったミュージカルが、まさしく〈契約の旅〉だ。旧約聖書に出てくるヨセフの家庭問題を通じた問題と苦しみの中での答えと、イラク戦争を通過して家庭の崩壊を経験したアメリカの若者ケリンが体験する痛みの中で、過去と現在とをつなぐ信仰の価値が発見できるので、その公演を観ている個人がともに共感を成し遂げて行くのだ。人はだれでも、本人が知る知らないにかかわらず経験する過去の傷がある。貧しいのが不幸ではなくて、金持ちだから幸せなのではない。しかし、人間が縛られている現実の状況を未来に行く道だと信じる人は、はたしてどれくらいなのかマンハッタンの繁華街タイムスクエアのきらびやかで派手な照明の下で熱狂する観光客と彼らを見回す乗馬警察の間でじっくりと見てみる。やみを背景にした光が派手に見えて、簡単に見られる光景ではないので、幼稚な服装に誘惑されるが、ニューヨークを期待して宝探しを夢見た人々が、ニューヨークの中のニューヨークを見たとしても、その力を得ることはできない。都市の虚像と幽霊が幅をきかすニューヨークで、いのちを持った契約の旅程は、福音の価値を表わしたので、ニューヨークに行ってみなくても、福音を持った者はニューヨークを歩く者より価値を持った者なのだ。

チョン・ヒョングク 牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ